

平成21年2月10日

各位

上場会社名 株式会社キャリアデザインセンター
 代表者 代表取締役社長兼会長 多田弘貴
 (コード番号 2410)
 問合せ先責任者 専務取締役経営企画本部長 森雄三
 (TEL 03-3560-1601)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年11月17日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年9月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年10月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,850	△220	△219	△128	△2,143.08
今回発表予想(B)	1,432	△543	△540	△613	△10,282.65
増減額(B-A)	△418	△323	△321	△485	――
増減率(%)	△22.5	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年9月期第2四半期)	2,281	74	76	32	539.24

平成21年9月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,040	58	60	30	507.59
今回発表予想(B)	2,745	△915	△910	△985	△16,522.69
増減額(B-A)	△1,295	△973	△970	△1,015	――
増減率(%)	△32.1	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期)	4,516	84	89	28	484.73

修正の理由

米国サブプライムローン問題に端を発した金融危機は、急激なスピードで世界的に実体経済に波及し、国内外における景況感は著しく減退しております。当社におきましては、この景況感の減退による企業業績の急激な悪化の影響を受け、雇用情勢については当社の営業基盤である東京都の有効求人倍率が平成20年12月で1.04倍(前年同月1.40倍)となっていることから大変厳しい経営環境となっております。

キャリア情報事業におきましては、当社の主要顧客である大手企業の中途採用凍結、採用継続企業における採用予算の大幅な縮小が相次ぎ、これに対応するため当社を含める人材サービス企業各社の価格競争の激化は一層激しくなっております。特に当社においては、中途採用における多様な媒体を組み合わせて提供することを強みとしておりますが、求人企業における費用対効果重視(採用媒体の選別)及び採用予算縮小の動きは当社の予想を大きく上回っております。このため、当社における取引社数の減少及び1社当たりの取引単価の下落は今後も引き続き継続すると見込まれ、売上高は計画を大きく下回る見通しとなっております。なお、当社主力商品である「@type」は「サイト及び求人広告の改善」「効率を重視した宣伝活動」により、求職者が月間100万人以上訪れるWebサイトに成長しており、求人企業の求める広告効果を実現していることから求人企業より高い評価を得ております。また、前期における営業人員の増強及びエリア制深耕の結果、求人企業への訪問件数は大幅に推移しており、今後一層の営業努力により単価の下落を補うべく取引社数の拡大に努めて参ります。

人材紹介事業につきましては、キャリア情報事業と同様に求人企業の採用抑制の影響から求人案件は減少傾向にあり、また企業における採用基準がより一層厳格化していることから、登録者(求職者)が内定に至るまでのプロセスの落下率が拡大しており、この結果売上高は計画を下回る見通しとなりました。しかしながら、求職者の登録が対前年150%以上の水準で推移しており、今後につきましては、これに対応できる求人案件の開拓に取り組み、増加する登録者と企業とのマッチングに全力を注いで参ります。

利益面につきましては、売上高が計画を大きく下回ることから、昨年より徹底した売上原価、販売費及び一般管理費の削減(情報誌発行の見直し、新卒者を含む採用活動の中止、その他一般管理費の削減)を行うことにより、今期だけでなく来期も見据えた経営効率・収益性の改善に取り組んでおります。しかしながら売上高の減少を充足するには至らず、大幅な業績の修正を行わざるを得ない結果となりました。

以上、今期につきましては、大変厳しい業績が予想されますが、役員・従業員一丸となって再度高い成長性を実現し、株主の皆様のご期待に応えて参る所存です。

以 上